

(11)Publication number:

63-171855

(43)Date of publication of application: 15.07.1988

(51)Int.CI.

C22C 38/40 C22C 38/00 C22C 38/50 C23C 8/38

(21)Application number: 62-003874

(71)Applicant: KOBE STEEL LTD

NIPPON DENSHI KOGYO KK

(22)Date of filing:

09.01.1987

(72)Inventor: SHIINA AKITO

ODA YOSHIFUMI KAWAUCHI AKIRA YAMADA YOSHIAKI

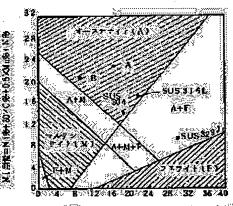
OSADA YUKIO

(54) STEEL MATERIAL FOR PLASMA CARBURIZING OR CARBONITRIDING

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the surface hardness and wear resistance after plasma carburizing or carbonitriding without deteriorating the rust resistance or nonmagnetism, by specifying the amts. of C, Si, Mn, Cr, Ni, N, P and S.

CONSTITUTION: This steel material for plasma carburizing or carbonitriding consists of, by weight, 0.05W0.35% C, 0.2W1% Si, 10W28% Mn, 10W18% Cr, 0.05W6% Ni, 0.02W0.4% N, ≤0.045% P, ≤ 0.02% S and the balance Fe and has 10W20% Cr equiv. (Cr% +1.5Si%) and 17W30% Ni equiv. (Ni%+30C%+0.5 Mn%+N%) in the prescribed Schefler phase diagram. When the steel material is subjected to plasma carburizing or carbonitriding, the surface hardness and wear resistance are improved without deteriorating the rust resistance or nonmagnetism.



YERM CYNTHON I I SXSINIO SXNE

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



19日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭63-171855

⑤Int Cl.4

識別記号

302

庁内整理番号

每公開 昭和63年(1988) 7月15日

C 22 C 38/40

38/00 38/50 A-7147-4K

C 23 C 8/38

6554-4K 審査請求 未請求 発明の数 2 (全10頁)

の発明の名称

プラズマ浸炭または浸炭窒化用鋼材

②特 顧 昭62-3874

❷出 顧昭62(1987)1月9日

砂発 明 者 椎

拿人

兵庫県神戸市垂水区五色山7-3-26

 恵 文

兵庫県神戸市中央区熊内橋通1-9-10

砂発 明 者 川 内

。島

兵庫県神戸市西区秋葉台1-21-7

の発明者 山田 凱りの発明者 長田 幸 i

朗 兵庫県明石市藤江968-5

位 発明 者 長田 幸 雄 位 出願 人 株式会社神戸製鋼所

名

兵庫県宝塚市中山桜台5-23-1-115 兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目3番18号

60出 顧 人 日本電子工業株式会社

東京都三鷹市下連省3丁目27番12号

四代 理 人 弁理士 植木 久一

明和音

1. 発明の名称

プラズマ浸炭または浸炭窒化用鋼材

2. 特許請求の範囲

(I) C : 8.05~0.35% (重量%の意味、以下

何じ)

S 1 : 0.2 ~ 1 %

Mn:10~28%

Cr:10~18%

N 1 : 0.05~ 6 %

N : 0.82~8.4 %

P : ≤ 0.045 %

S : ≤0.02%

でかつシェフラー状態圏において

C r 当量 (Crt+1.551t) = 18~20%

N i 当量(N14+30C4+0.5Mn4+N4) = 17~30% となる様に成分設計され、残都が鉄および不可避 不純物より成りプラズマ浸炭または浸炭窒化処理 後に非磁性で高硬度な特性を示すことを特徴とす るプラズマ浸炭または浸炭強化用鋼材。 (2) C : 0.05~0.35%

Si: 0.2 ~ 1 %

Mn:10~28%

Cr:10~18%

N 1 : 0.85~ 8 %

N : 0.02~0.4 %

P : ≤ 0.045 %

'S : ≤ 0.01%

および

Mo:0.1 ~ 3 %

N b : 0.85~ 1 %

V : 0.05~ 1 %

Ti: 0.05~ 1 %

のうち1種以上の成分を合有し

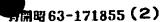
シェフラー状態図において

Cr当量 (Crt+Hot+1.551t+0.5Hbt)=10~20%

N i 当量 (Nix+30Cx+8.5Mnx+Nx) = 17~30%

となる様に成分設計され、残事が終わよび不可避 不統物より成り、プラズマ授援または浸炭量化処

理後に非磁性で高硬度な特性を示すことを特徴と



するブラズマ後炭または浸炭窒化用鋼材。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明はプラズマ提展または浸炭強化処理に適した高Mn非磁性網に関し、群細にはプラズマ浸炭または浸炭強化処理を行なったときに耐銹性や非磁性を摂わずに表面高硬度および高耐摩耗性を得ることのできるプラズマ浸炭または浸炭強化用鋼材に関するものである。

[従来の技術]

事務機器や電子機器等の様に磁気を回避する必要のある特密部品の素材においては、透磁率μ=1.01以下の非磁性が要求されるだけでなく寸法格度の向上並びに該寸法務度の長期間持続性を保証するため、硬度H v = 6 0 0 以上で耐摩耗性や耐然性(塩水噴霧テスト 2 0 0 H r 以上)に優れた非磁性材料であることが要認されている。

高Mn非磁性網は耐熱性および非磁性を有する 為上記要望をある程度機足しているが、硬度が低く、耐摩耗性が十分でないためそのままでは使い

か改善されず、硬化酸さが 6.1mm では H v = 400 と低いものであった。また比較的高硬度が得られる材料として S U S 3 2 9 J 1 が知られており、9 5 0 で× 1 時間処理の場合表面硬度いない。また財政の場合をでは、 H v = 3 5 0 程度と低く、しかも元々フェ会は、 H v = 3 5 0 程度と低く、しかも元々のは、 H v = 3 5 0 程度と低く、しかも元々の強材である為耐会性が低く、且でおける。また財会性の良好な非磁性材料としていまる。また財会性の良好な非磁性材料として、 そのまたといるのでは H v = 4 0 0 までしか得られなかった。

【発明が解決しようとする問題点】

以上述べたように高M n 非磁性鏡は、表面硬化 処理後もその非磁性および配続性を保有し、且つ 硬度面においては表面硬化層の表面硬度が H v = 600~1300、硬化深さ0.2~0.3mm のとこ ろでの硬度が H v = 600以上を示し、更に表面 硬化層の劉離現象が皆無でしかも耐摩耗性にすぐ れている様なものが開発されておらない。従って 難い。そこで表面硬化処理を施して上記製品へ適 用することが試みられている。この高Mn非磁性 鋼はオーステナイト組織を持った鋼である為、一 般のオーステナイト鋼の通性として表面硬化のた めの浸炭・盤化処理は普通網に比べて困難であ る。たとえばオーステナイト錨であるSUS 304を通常の意化処理方式に従って処理する場 合は、硬化漆さ100~200μm。硬度Hv= 400以上という極く普通の硬化層を得るだけで も100~200時間もの長時間熱処理(400 ~ 6 0 0 °C) が 必要 で あり 、 そ の 結 果 耐 会 性 の 低 下や透磁率の悪化(μ ≒ 1.0 以下がμ = 1.5 以 上となる)を招き非磁性材料としての要求特性を 喪失してしまう。また一般的登化処理条件によっ て表面硬化が図られたものにあっては窒化層の剝 離現象を生じ易く、この現象は高M n 非磁件曲に おいて特に顕著であり、安定した変化硬化層が得 られなかった。

また例えばSUS304の浸炭登化処理による 硬化層の表面硬さはHv=400~700までし

従来の高Mn非磁性網は、表面硬さ、耐摩耗性、 耐勢性、非磁性の全てが要求される製品の材料と しては適用できなかった。

そこで本発明においては、高Mn非磁性網のプラズマ浸炭または浸炭窒化処理に際し、耐熱性および非磁性を摂うことなく表面高硬度および耐寒 耗性に優れた材料を得ることのできるプラズマ浸 炭または浸炭窒化用鋼材の提供を目的としてい

[阿鵬点を解決するための手段]

上記問題点を解決することのできた本発明のブ ラズマ授炭または授炭窒化用御材とは

> C: 0.05~0.35% (重量%の意味、以下 同じ)

Si: 0.2 ~ 1 %

Mn:10~28%

Cr: 10~18%

N i : 0.05~ 6 %

N : 0.02~0.4 %

P : ≤ 0.045 %



S : ≤ 0.01%

でかつシェフラー状態図において

Cr当量 (Cr\$+1.5Si\$) = 10~20%

N 1 当最(Bis+30C\$+0.5Mn\$+8\$)=17~30% となる様に成分設計され、残部が鉄および不可設 不統物より成りプラズマ提炭または浸炭窒化免理 後に非磁性で高硬度な特性を示すことを構成要皆 とし、さらに非磁性安定化と耐食性および強度向 上のために

Mo: 0.1 ~ 3 %

N b : 0.05~ t %

V : 0.05~1 %

Ti: 0.05~1 %

から選ばれる1種以上の元素を配合する点にも本 発明の要旨が存在する。

[作用]

本発明は高Mn非磁性鋼の成分組成を下記のように特定することにより、プラズマ浸炭または浸炭窒化処理を施した場合であっても高Mn非磁性 鋼の特性である耐熱性や非磁性を損力ずに表面硬

Crs Cs. (Fe・Mn・Cr)。Cs 等や登 化物Mn4 N. Mns Na, CrN. Crs N等 およびこれらの複合化合物を形成し硬くて安定し た層状組織を形成する上で有効なものである。ま たNについては、Nが多く入っていても後炭陽ま たは後炭登化層はもろくならずかえって耐食性や 耐摩耗性が向上することから添加量を増加させる。

次に本発明で規制するブラズマ浸炭または浸炭 窒化用鋼材に含有される各成分および含有量限定 理由について述べる。

C: 0.05~0.35%

C は極めて侵れたオーステナイト形成元素であり、かつ強度を付与する元素であるが、0.05%未満では所望の非磁性および強度が得られず、0.35%を超えると耐動性が低下する。

Si:0.2~1%

Siは脱酸剤として必要であるが、0.2 %未満では脱酸効果が不足し、1%を超えるとB系介在物として析出し耐熱性を低下させる。

度および耐摩耗性の向上が図れる様になったものである。まず本発明を構成する主要成分の作用概要を述べる。

耐食性向上のためにC%を減じCrやNを増加させ、また耐摩耗性の向上のためにMn. Cr. N%を増加させている。そして非磁性の安定化のために第1図に示すシェフラー状態において

Cr当量(Cr\$+1.5Si\$) = 10~10%

N i 当量(HL*+30C*+0.5Mn*+H*)=17~30% とする。またCr, Si. Ni, C, Mn. Nの 他にMoおよびNbが猛加されている場合には、

Cr当量 (Cr*+Mo*+1.5Si*+0.5Nb*) = 18~26% Ni当量 (Ni*+38C*+8.5Ma*+N*) = 17~30% とする。さらにプラズマ接後または浸炭強化に直接関与する表面硬化成分という観点からもMn及びCrを増加させる。これらの元素はプラズマ浸炭または浸炭強化後炭化物 Pea C. (Fe・Mn・Cr) a C. Mn a Ca. (Pe・Mn・Cr) a Ca. (CranCa. CranCa.

Ma:10~28%

Mnはオーステナイト形成元素であり、かつプラズマ浸炭または浸炭塗化によって炭化物・窒化物を形成し高硬度を得るために必要な元素である。しかし10%未満では十分な高硬度が得られず28%を超えて含有すると大型電気炉での溶製が困難となりまた熱間加工性が考しく低化する。 Cr:10~18%

Crは非磁性を安定させかつ耐熱性を付与する 顕著な効果があると共にプラズマ浸炭または浸炭 窒化深さを制限し表面硬度を高くする元素でもある。しかし10%未満ではその効果は少なく、 18%を超えるとシェフラー状態図においてCr 当量が高くなり、フェライト相の生成により非磁性が不安定となる。

N 1 : 0.05~ 6 %

NiはC、Mnおよび後述するNと同様にオーステナイト形成元素であり、0.05%未満ではオーステナイト形成の安定化に効果は少なく、6%を超えて含有させても価格が高くなり不経済であ

持期昭63-171855(4)

5.

N : 0.02~0.4 %

Nはオーステナイト形成元素であり、かつ鋼の 強度を向上させる元素である。同時に登化処理促 進に有効な元素であるが、0.02%未満ではプラズ マ浸炭または、窒化処理しても表面硬度は向上せ ず、また0.4 %を超えると表面効果層の窒素成分 が1.5 %以上となり非常にもろい層になる。

P : ≤ 0.045 %

Pは0.045 %を超えると介在物を形成し、耐銹性劣化の原因となる。

S : ≤0.02%

Sは0.02%を超えると介在物を形成し、耐勢性 劣化の原因となる。

以上の成分を含有し、シェフラー状態図においてCr当量およびNi当量を満足し、残節鉄および不可避不能物よりなる個材にプラズマ浸炭または浸炭塑化処理を施すと、耐器性や非磁性を摂うことなく表面高硬度および高耐寒耗性が得られる。またCa:0.801~8.01%を含有させると精

密部品の加工において要求される被削性にすぐれたものが得られる。さらに後述するようにMo、V、TiskびNbのうち1種以上を添加すると被磁性の一層の安定化と耐会性および強度向上を図ることができる。

Mo: 0.1 ~ 3 %

Mのは耐食性および表面硬化を改善するために 有効な元素であり、0.1 %未満では顕著な効果が 期待できず、3 %を超えるとフェライト相を生成 し非磁性が不安定となる。また高値な元素であり 多量に添加することは不経済である。

Nb. Valuti: 0.05~1%

N b . V およびTiは M o と同様な働きを有し、いずれの元素も0.05%未満では効果が少なく、1 %を超えると靱性が低下する。

[実施例]

第1表に示す成分組成の鋼材を使用し、ブラズマ提炭または浸炭強化処理を施し各種鋼の特性を 調べた。本発明で規制したものを翻種Aで示し、 本発明規制外のものである鋼種Bと従来網のもの

を比較例として示し、結果を第2表に示す。

(以下 余白



特開昭63-171855(5)

(%)

	44 84	С	3 (M a	P	5	Co	N 1	Cr	Мo	N
本発明例	٨	0.05~0.25	0.20~0.70	17.60 ~10.50	≤0.840	≤0.015	≤0.10	2.80~7.00	14.44 ~17.88	0.10~0.40	0.25~0.40
		0.28~0.16	1.76~2.20	22.50 ~24.50	≤0.030	≤0.010	≤0.30	2.80~1.30	5.40 ~ 5.55		_
	5B5384-78	0.05~0.08	0.18~8.70	0.80 ~ 1.10	\$0.840	≤0.007	≤0.10	8.00~9.00	18.88 ~18.50	_	_
比较例	585304-N	≤0.08	≤1.08	≤1.5¢	≤0.045	≤0.010	_	7.08~10.50	18.08 ~28.08		0.10~0.25
	585218-L	≤0.030	≤1.00	≤2.60	€0.44	≤6.010	-	12.00 ~15.00	10.40 ~10.00	2.88~2.00	_
	505329-J1	≤1.84	≤0.1	≤ 1.50		_	_	3.6~6.6	13.0 ~28.0	1.0 ~1.0	

第 2 奏

無		プラズマ後炎堂化処理物							
# F	表面硬度 (fiv)	透磁等。	角理条件	表面發度 (8v)	提出4.ten(Rv)	振さり、les (IV)	提を1.0m((tv)	透磁學	附属性
A 250~280	1.61以下	810 C×1 時間	100 ~510	500 以上	_	_	1.01 以下	•	
	A 230-210	1.0754	開稿は×3 081	850 ~960	760 以上	500	400	1.01 以下	•
8	B 200~230	1,01 <u>M</u> T	910 C×1 時間	754 ~450	500 DLE	_		1.01 以下	×
705-770	1.012	980 ℃×12時間	888 ~500	500	_	_	1.01 LLT	×	
SU S304	180~214	1.01 ~1.01	新報 1×2 616	180	350	-	-	1.02~1.05	Δ
SU\$304H1	200~230	1.01ELF	昭和 1×プ 088	659	440	-	_	1.01~1.02	0
SRZZIOL	180~100	1.01以下	950 ℃×1 時間	610	310		-	1.01~1.02	0
20211911	240~270	2.5 以上	850 ℃×1 時間	828	380	<u> </u>	<u> </u>	2.5ELE	Δ

〇: 良好 〇: 普通 △: 少し思い ×: 題い

また各個材のプラズマ侵炭型化処理物の表面からの硬度分布を第2回、第3回および第4回に示す。さらに側径AおよびBをギャー材に適用した場合の硬化層の組織写真を第5回および第6回に従来線の組織写真を第7回に示す。また第8回および第9回に側径AおよびBの浸炭型化処理後のEPMAを示す。

第2表および第2図~第7図から明らかなように網種AおよびBは短時間処理長時間処理のいずれに網種AおよびBは短時間処理長時間処理度いずれた満足できる値が得られている。尚従来網では機足できるものもあるが9.2mm 深を翻せている。また、総理度は横足できるものもあるが9.2mm 深を翻せている。また、総が、第5図と前にはでは、第5図と上ではできると、第5図の網種と対すると第5図の組織をではがある。また、の別域を対すると第5図の組織をではがある。第6図の網種Bでは網種Aに、のつちても表に関が組く、かつ均一でないたもでは、第6図の網種Bではのでは、第6図の網種Bでは、第6図の網種Bでは網種Aに比較度が組入、かつ均一でないたものでは、第6図の網種Bではのは、かつ均一でないたものでは、第6図の網種Bではの対して、第6図の網種Bではの対しては、第6回の網種Bではの対しては、第6回の網種Bでは、かつ均一でないたものでは、第6回の網種Bには、かつ均一でないたものでは、第6回の網種Bには、かつ均一でないたのでは、第6回の網種Bには、かつ均一でないたのでは、10回のでは、10

撃に対し薄く、剣雄・鬱れの発生に結びつく。

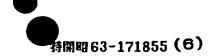
第8図および第9図から明らかなようにA、B 朝共にN侵入量は0.3 %程度であるが、A 綱は 元々0.3 %を含有しており計0.6 %の値となえる。 いる。一方に侵入量は両綱共に1.6 %を超える。 しかり表したとがMn、Cr、Fe等の元素と別 化物形成し、又NがMn、Cr等の元素と別 化物形成していることが推定できる。A 綱はに 比較してN量のトータル侵入量及びに侵入の ツキが少ないことにより数額組織の形成及び安定 な硬化圏形成に結びついている。

[発明の効果]

以上のように本発明の鋼材は、プラズマ浸炭または浸炭窒化処理を行なったときに耐銹性や非磁性を摂わずに表面硬度および耐摩耗性を改善することのできる鋼材である。

4. 図面の簡単な説明

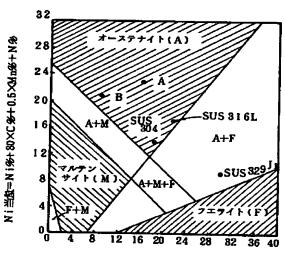
第1 図はシェフラー状態図、第2 図。第3 図 および第4 図は各綱材プラズマ浸炭窒化処理物の表



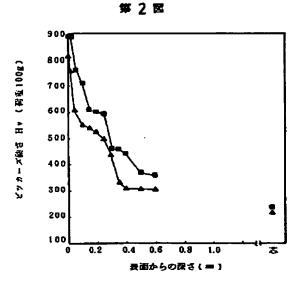
面からの硬度分布を示す図、第5図。第6図および第7図は各類材の組織状態を示す図面代用拡大写真、第8図および第9図は網種AおよびBの浸供登化処理後のEPMA図面代用写真である。

出國人 株式会社神戸製鋼所出頭人 日本電子工業株式会社代理人 弁理士 植木久

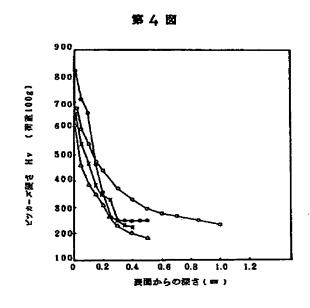
第1図



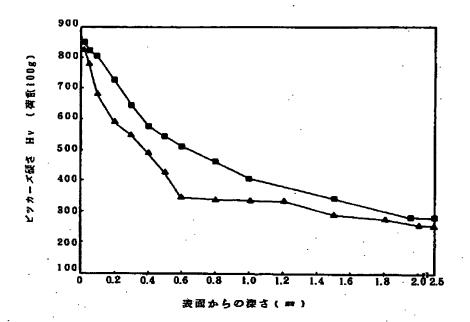
Cr当量=Cr%+Mo%+1.5×Si%+0.5×Nb%



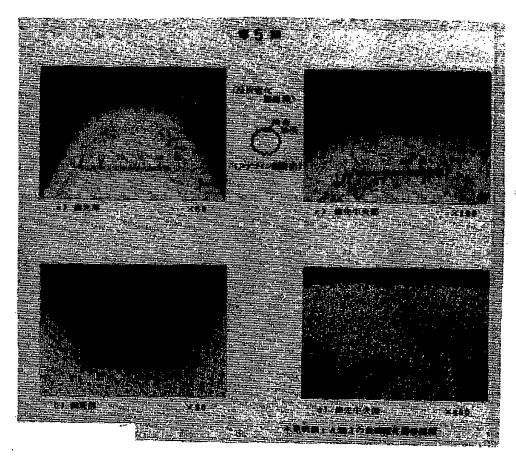
■ 本発明例編集A (910℃×1時間プラズマ浸炭室化処理) ■ 比叡例課題 B (910℃×1時間プラズマ浸炭宮化処理)

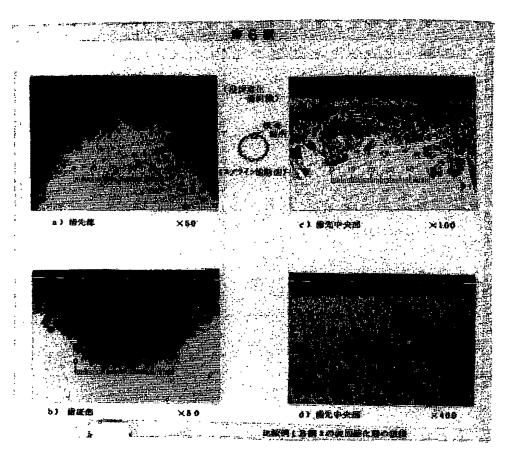


第3図

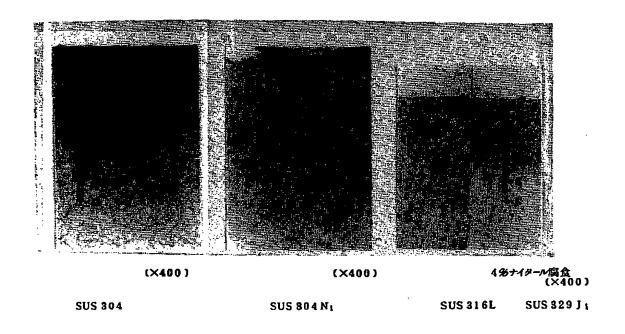


- 本発明例領艦 A (980℃×25時間プラズマ浸炭艦化処理
- ▲---▲ 比較例鋼種 B (980℃×22時間プラズマ浸炭鉱化処理)





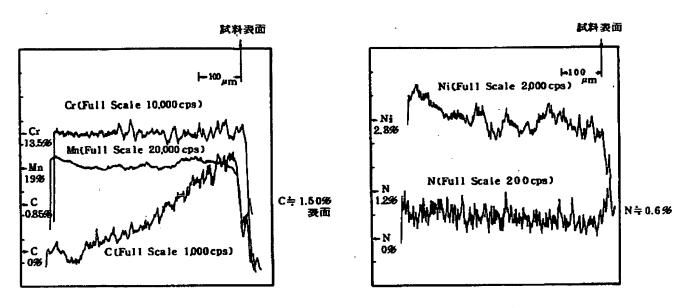
第7回





図面の浄色(中容に変更をし)

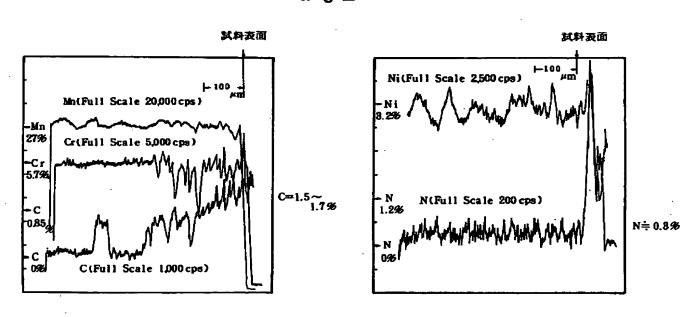
第8図



鋼種Aの浸炭窒化処理後の成分分析結果

図面の浄弦(内容に変更なし)

第9図



鋼種 Bの浸炭窒化処理後の成分分析結果



特開昭63-171855(10)

表

手続補正書(ガ式)

昭和62年 4月15日

特許庁長官 飝 田 明 雄

1. 事件の表示

昭和 62年特許 鎖第 3874号

2. 角明の名称

プラズマ後供または提供質化用額材

3. 補正をする者

事件との関係 特許出國人

神戸市中央区路共町1丁目3番18号 (118)時式会社 神戸監備所 代項者 牧 平 郎

4. 代 理 人

住 所 大統市之区常局2丁目3書7号 503-118407



5. 補正命令の日付

昭和62年 3月31日 (勇进日)

6. 補正の対象

7. 雑正の内容

削紙「正興者」の遣り打正します。



Ą	ধ্য	SA.	ΙE
16	8~7	提供登化処理後の EPMA	提供費化処理後の表面部の組成を表わす BPMA
18	4		張炭酸化処理後の表面部の組 成を表わすEPMA図
(20) Bis		第8関及び第9関	別紙第8図及び第9図と差し 替えます。

Æ

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.